

Not the End of the Story:

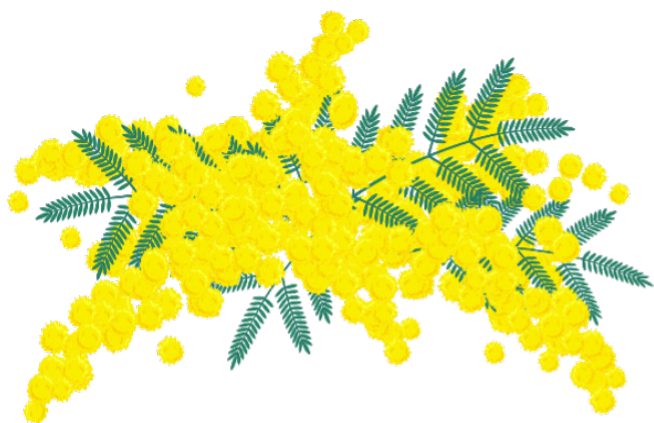
Conversation on Sexual Violence, Media, and Feminist Futures

終わらない物語:

性暴力、メディア、フェミニズムの未来を考える

June 27 and 28, 2026

Room L-921, 9F, Central Library, Sophia University



Day one: June 27 (Sat) 15:00-17:00

Art/Feminism/Activism

(Event in Japanese with English translation:
日本語に英語の通訳) 事前登録不要

Day two: June 28 (Sun) 13:00-16:30

「二次加害をなくすには～訴える声を阻む壁」

(In Japanese only: 日本語のみ)

要登録: <https://forms.gle/NWdEKe1y8D1shLVb7>

Over the past decade, feminist movements, survivor activism, and public debate have transformed how sexual violence is discussed in Japan. From grassroots campaigns of [#MeToo](#) to recent legal reforms, such as the 2023 revision of the Penal Code, important changes have emerged in both public discourse and institutional frameworks.

Yet these developments do not mark the end of the conversation. Recent cases, including the 2025 Fuji TV scandal, continue to reveal the persistence of secondary victimisation, media sensationalism, and structural barriers surrounding sexual violence.

Bringing together artists, activists, journalists, and researchers, this weekend event at Sophia University reflects on the achievements of past feminist interventions while asking what kinds of responsibility, care, and institutional transformation are still necessary for the future. The conversation around sexual violence must continue — not only as a matter of law, but also as a question of culture, media, and collective ethics.

この10年で、日本における性暴力をめぐる議論は大きく変化してきました。[#MeToo](#)をはじめとする草の根の運動、サバイバーによる声の発信、そして2023年の刑法改正などを通じて、性暴力をどのように語り、どのように社会として向き合うのかについて、重要な変化が生まれています。

しかし、こうした変化は、この問題の「終わり」を意味するものではありません。2025年のフジテレビ問題が示すように、二次加害、メディアによる過剰な報道、そして性暴力を取り巻く構造的な課題はいまなお残されています。

本週末イベントでは、アーティスト、アクティビスト、ジャーナリスト、研究者が集まり、これまでのフェミニスト運動や社会的な取り組みの成果を振り返るとともに、これからどのような責任、ケア、制度的変化が必要なのかを考えます。性暴力をめぐる対話は、法制度の問題にとどまらず、文化、メディア、そして私たちの社会の倫理を問うものとして、これからも続けていく必要があります。

Sunday June 28th, 2026, 13:00-16:30

Room L-921, 9F, Central Library, Sophia University

二次加害をなくすには： 訴える声を阻む壁

「2人で部屋に入ったあなたが悪い」「どうして逃げなかったの?」「あなたが訴えたら(加害者は)出世できなくなるんですよ!」

性暴力を受けた人を打ちのめす二次加害の言葉は、あらゆるところから飛んできます。見て見ぬふりも加害に加担すること。孤立させる行為も当事者を傷つけます。その結果、職場復帰を諦めざるを得ないこともあるのです。二次加害が職を奪い、夢を奪っています。

私たちは2月のシンポジウム「もう終わらせよう、メディア・芸能・芸術の構造的性暴力」に続き、今回は二次加害についてのイベントを企画しました。

二次加害は個人の無理解だけが原因ではありません。司法、メディア、SNS、相談窓口など、私たちの日常に潜む「沈黙を強いる構造」が作り出す巨大な壁です。そんな社会を変えるために、一緒に考えましょう。

◆日時: 6月28日(日) 午後1時から4時半

◆場所: 上智大学 中央図書館9階 L-921号室

(東京都千代田区紀尾井町7番1号・四谷駅麴町口・赤坂口から徒歩3分)

◆第1部: シンポジウム(オンライン併用)

・被害者Aさんの場合～取材・支援の現場から＝ジャーナリストの松元ちえさん

・捜査機関による二次加害～アンケート結果から＝性暴力被害者の池田鮎美さん

・二次加害とは何か～研究・実践の現場から＝上智大学心理学科准教授の齋藤梓さん

◆第2部: グループワーク(対面のみ)

二次加害とはなにか、二次加害を防ぐには、そのために私たちはなにをすべきか…などについて話し合います。(安全安心な場所での議論とするため、オンライン併用は行いません)

◆申込先: <https://forms.gle/NWdEKe1y8D1shLVb7>
または、右のQRコードから

◆申込締切: 6月25日(木)



【登壇者プロフィール】

▼松元ちえさん: ジャーナリスト、新聞通信合同ユニオン委員長。共著に『マスコミ・セクハラ白書』など

▼池田鮎美さん: 性暴力被害者。元ライター。ポリタスTVのMC。単著に『性暴力を受けたわたしは、今日もその後を生きています。』

▼齋藤梓さん: 上智大学心理学科准教授。臨床心理士。公認心理師。単著に『性暴力についてかんがえるために』など

このイベントは「構造的性暴力を終わらせるプロジェクト」実行委員会(新聞労連、民放労連などメディア関係の労組や専門家、被害当事者らで構成)と上智大学比較文化研究所リサーチユニット“[Sexual Harassment, Violence, and Consent: Japan in Cross-Cultural Perspective](#)”(代表者: 小高麻衣子助教)の共催です。

連絡先: メディア総合研究所

(TEL: 03-6666-9404 / E-mail: 2026onevoice4change@gmail.com 担当: 岩崎)

Sophia University Institute of Comparative Culture: <https://www.icc-sophia.com/>
Register to our mailing list: <https://forms.office.com/r/NNgXg6sEmU>

